

## 新規・重点 高幡地域アクションプラン（案）

高 幡 地 域 本 部

令和6年2月1日（木）

# [新規] APNo.19 スケートパークを核とした地域の活性化

## 事業の概要

魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。

【実施主体】 ◎須崎市

第5期(R6~R9)		
指標	出発点	R9(目標)
主要施設等の入込数	-	27,000人

## これまでの取り組み

- 経緯  
令和3年11月に地元高校生を中心とした「須崎市にスケートボードパークをつくる会」による署名活動が始まり、須崎市議会へ陳情書、須崎市へ要望書が提出され、須崎市議会において採択されたことから、須崎市として整備する方針を決定。
- 取り組み  
R4.10 基本構想の策定  
R4.10~ 整備予定地の選定および交渉  
R5.7 先進地視察（大阪府松原市）

## 地域APにより解決したい課題

1. スケートボードを楽しめる施設がない  
東京五輪を機に注目を集めている中、愛好家や若者が楽しめる魅力的な施設（一定の規模や設備、コースなど）がない。
2. スポーツを見る、楽しむ人の誘客のための仕組みが十分でない  
（スポーツツーリズムの提供機会が少ない）  
愛好家だけでなく、子どもを含むファミリー層など幅広い層がスポーツに親しむ機会の提供や、大会開催等による競技力向上のノウハウがない。
3. 交流人口の拡大に資する取り組みが十分でない  
若者やファミリー層をターゲットにした周遊促進や滞在時間の延長等、地域経済へ波及効果をもたらす取り組みがない。

## 課題への対応

## 今後の取り組み

1. 魅力ある施設の整備
  - ①施設整備に向け、整備予定地における諸課題の早期解決
  - ②愛好家にとっての需要を満たし、初級から上級者まで楽しめる施設の整備、コースを検討
  - ③同時に、高速道路のインター出口である地理的条件を生かし、ファミリー層など幅広い世代が訪れたいパークとして魅力ある施設を整備
2. 指導者の確保、教室の開催等
  - ①集客向上やリピーターの獲得に向け、指導者確保を含めた運営体制の検討
  - ②手ぶらで訪れることができるファミリー層等への用具のレンタルや教室・大会の開催による若い世代を中心とした新たな交流人口を創出
3. プロモーション・イベント等の企画・実施による誘客
  - ①SNSを活用した情報発信方法の検討
  - ②アートや音楽と連動した魅力あるイベントの検討
  - ③これまでと異なるターゲット層を周辺エリアへ周遊させて行く仕組みの検討  
（海まちプロジェクトや浦ノ内マリパークとの連携）



# [重点] APNo.3 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化

<高幡地域本部>

## 事業概要

四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。

分野	農業
実施主体	◎ 四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、 ◎ (株)四万十ドラマ、四万十町
APへの位置付け	H22.4月

第4期(R2~R5)					評価※ (達成率)
指標	出発点	R4	R5(見込)	R5(目標)	
JA栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26 t (R元)	26.6 t	27.4 t	50 t	<b>D</b> (54.8%)
人参芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	24 t (R3)	44 t	—	40 t	<b>S</b> (110.0%)
栗ペースト出荷量	9.3 t (R3)	7.5 t	—	10 t	<b>C</b> (75.0%)
(株)四万十ドラマ 加工品販売額	2.42億円 (R3)	3.4億円	4.0億円	3.0億円	<b>S</b> (133.3%)

第5期(R6~R9)		
指標	出発点	R9(目標)
JA栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6 t (R4)	30 t
芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44 t (R4)	70 t
(株)四万十ドラマ 新規雇用者数	—	10人 (R6~9累計)
(株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4億円 (R4)	5億円

※R5(目標)に対するR5(見込)又はR4実績の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満  
**C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

## 現状と課題

### 【現状】

- 加工事業者を中心に生産から流通販売に至るまで、多岐に渡る関係者で取り組みが進められている。
- 栗、芋を使った加工品の販売額は順調に伸びている。
- 更なる販売の拡大のためには、原材料の確保や製造及び営業の体制強化が必要。

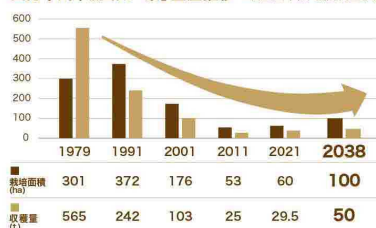
### 【課題】

- 高齢化や労働力不足に伴う生産量の減少(栗)

→ 草刈りや剪定、収穫期における人手不足の深刻化

- 安定的な加工場の稼働(栗・芋の収穫期が集中)
- さらなる販路の開拓に向けた営業体制や販売の強化

四万十川中流域の「栗」生産推移 ※西土佐、十和、昭和、大正地域



## 第5期における取り組みの内容

### 1. 生産の強化

- 拡** ①しまんと流域農業organicプロジェクトの推進  
地域の農業法人との連携により栗、芋等の栽培を拡大する。
- 拡** ②しまんと地栗植樹プロジェクト(10年で10haの新植)  
(株)四万十ドラマ農業部門を立ち上げ、栗の新植から一定の収穫が見込めるまでには5~10年を要するため、売上の一部を活動資金に栽培管理を行い、しまんと地栗を未来に繋げていく。
- 新** ③四万十の人々の日々の営みに学ぶ『しまんと分校』の開校  
新しい価値を見つける研修プログラム(2泊3日)を実施する。

### 2. 加工流通・販売拡大

- 拡** ①加工技術の向上及び繁忙期の平準化による生産性の向上
- ②生産拡大に向けた設備・施設整備の検討(貯蔵庫、冷凍庫、農作物流通センター等)
- ③営業課の人員拡充、イベント企画と連動したギフト商品の展開
- ④自社ECサイトでの販売強化(公式LINEを通じた情報発信やクーポン配布等の誘導)



しまんと分校  
Practice & Lecture





# [重点] APNo.17 須崎市海のまちプロジェクト

<高幡地域本部>

## 事業概要

須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。

分野	観光
実施主体	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会、(一社)須崎海のまち公社
APへの位置付け	R3.9月

## 第4期(R2~R5)

指標	出発点	R4	R5(見込)	R5(目標)	評価※ (達成率)
主要施設の 来場者数	5,522人 (R2)	28,089人	40,000人	50,000人	<b>C</b> (80.0%)
エリア内 新規出店数	6件 (R2)	7件 (R3~4累計)	8件 (R3~5累計)	7件 (R3~5累計)	<b>S</b> (114.3%)

※R5(目標)に対するR5(見込)の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

## 第5期(R6~R9)

指標	出発点	R9(目標)
主要施設等の 入込数	28,089人 (R4)	53,000人

## 現状と課題

### ○現状

須崎大漁堂、須崎サカナ本舗のオープンをはじめ主要施設が増加したことで来場者数は年々増加している。

エリア内にとどまらず、浦ノ内マリパーク（ロゴスパーク）の完成記念や、高知アニメ聖地クリエイタープロジェクトと連携したイベントの開催など、さまざまな連携・協力によるイベントを開催してきた。

人通りの無かったところに、人が流れてきていることを地域住民も認知し始めており、新たな人の流れが創出できていると思われる。

### ○課題

- ・商工業や水産のBtoBのまちとして栄えてきたことから、BtoCの意識が「まち」に浸透していない。
- ・BtoCの意識醸成に向けた一層の集客が必要。
- ・市内周遊をはじめ、高幡地域の玄関口として周辺地域への周遊促進施策の充実が必要。
- ・周遊促進に向けた宿泊施設、駐車場等の不足。

## 第5期における取り組みの内容

### 新

### 1. 釣りバカシティプロジェクトの実施

R5年11月に「釣りバカシティ宣言」を行い、「世界で一番釣り人に優しいまち」をテーマに、須崎の誇る海と新荘川を活用した遊漁振興による交流人口の拡大プロジェクトを宣言した。「釣りバカ日誌」とコラボを行い、様々な関係機関と連携した取り組みを企画・検討しており、R6年から大会や教室の開催、市内事業者と連携したキャンペーンの開催等本格的に稼働し、交流人口の拡大を図っていく。



### 拡

### 2. まちまるごとホテルの整備による緑日商店街エリアの魅力向上と宿泊施設整備

R4年に整備した須崎大漁堂をフロントとし、エリア全体を宿泊施設と見立て、一棟貸しの宿を始めとした宿泊施設を整備することで、滞在時間の延長や市内、奥四万十等周辺エリアへの波及効果を促す。



### 拡

### 3. 高知アニメ聖地クリエイタープロジェクトと連携した魅力あるイベントの開催

R4年に開催した旧須崎高校を活用したイベントを踏まえ、同プロジェクトと継続した連携によるイベントの開催により、須崎の新たな特色として磨き上げていく。



### 4. エリア内の新たなランドマーク（R6須崎魚市場、R8図書館等複合施設）と連携した滞在・周遊の促進策の検討

引き続きランドマークを意識したエリアリノベーションに取り組み、目的地として選ばれる「海のまち」を目指したソフト事業を検討していく。また、第5期計画期間には、須崎魚市場や図書館等複合施設もオープンとなるため、これまでの取り組みと合わせ、多く人が訪れる街づくりを行っていく。



# [重点] APNo.22 津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト

第4期  
 統合 APNo.34 清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！  
 ～観光集客アップ作戦～  
 APNo.35 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト <高幡地域本部>

## 事業概要

四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラムなど津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。

分野	観光
実施主体	◎津野町
APへの位置付け	H21.4月

## 第4期(R2～R5)

指標	出発点	第4期(R2～R5)			評価※ (達成率)
		R4	R5(見込)	R5(目標)	
主要宿泊施設 年間宿泊者数	10,950人 (H30)	13,946人	14,134人	14,000人	<b>A</b> (101.0%)
主要観光施設 入込者数	261,094人 (H30)	414,146人	406,140人	300,000人	<b>S</b> (135.4%)
星ふるヴィレッジTENGU の年間宿泊者数	7,646人 (H30)	9,627人	9,848人	11,000人	<b>B</b> (89.5%)
四国カルストの 入込者数	75,012人 (H30)	176,989人	173,940人	148,000人	<b>S</b> (117.5%)

※R5(目標)に対するR5(見込)の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満  
**C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

## 第5期(R6～R9)

指標	第5期(R6～R9)	
	出発点	R9(目標)
主要観光施設 入込数	414,146人 (R4)	456,000人
主要宿泊施設 宿泊者数	13,946人 (R4)	15,800人
観光消費額	338,000千円 (R4)	385,000千円

第2期 津野町観光振興計画より

- 入込数：「星ふるヴィレッジTENGU」「風車の駅」「道の駅布施ヶ坂」「吉村虎太郎邸」「フォレストアドベンチャー・高知」「カルストテラス」
- 宿泊者数・観光消費額：「星ふるヴィレッジTENGU（キャビン・テングロー含む）」「遊山四万十 せいらんの里」「森の巣箱」「葉山の郷」

## 現状と課題

### ○現状

- 「津野町観光振興計画」に基づき、星ふるヴィレッジTENGU及び遊山四万十せいらんの里、フォレストアドベンチャー・高知がオープンし、観光客の受入体制が整備
- 四国カルストエリアの施設整備等による観光振興強化により観光客数が大幅に増加
- おんぱく手法を活用した体験キャンペーン「つのつねづね」による地域の魅力発信

### ○課題

- 人手不足により受入体制が弱い
- 四国カルストへの集客を強化し、町内への波及効果を生む取り組みが必要
- 観光ガイドの養成とスキルアップが必要
- 観光資源の磨き上げと情報発信の強化が必要
- 家族ニーズへの対応が必要

## 第5期における取り組みの内容

拡

### 1. 津野町の地域資源（星、津野山古式神楽など）を生かした観光魅力づくりの推進

四国カルストは四国内でも有数の観光地として今後も集客が見込まれることから、四国カルストを来訪した観光客に町内各地の魅力を伝えるための仕組みづくりを推進していく。

新

### 2. 観光基盤の整備

多言語パンフレットやキャッシュレス決済の整備などによりインバウンド観光を推進する。家族ニーズへの対応として、アウトドアコンテンツの開発を検討する。また、観光客の受入体制の更なる充実を図るため、町内の宿泊キャパシティ増を目指し、簡易宿泊所の開発等も検討する(空き家、町所有施設、既存民間施設等の活用)。

### 3. マーケティングに基づく戦略的な情報発信

観光に関するオープンデータの活用や、観光客へのアンケート調査により市場ニーズを把握し、ターゲットや目的に合わせた情報発信を行う。

### 4. 「世界にひとつのまち」の魅力を伝える人材育成

観光ガイドの育成、スキルアップのための講習会を実施する。観光関連事業者のおもてなし力を向上させるための事業者間の連携強化を図る。また、こどもたちの郷土愛を育む学習や、地域の自然、歴史、文化などを学ぶ機会の充実を図る。

### 5. 観光振興を推進する組織体制の構築

(一社)奥四万十高知や四国カルストエリア広域連携推進協議会などとの連携した取り組みを図る。